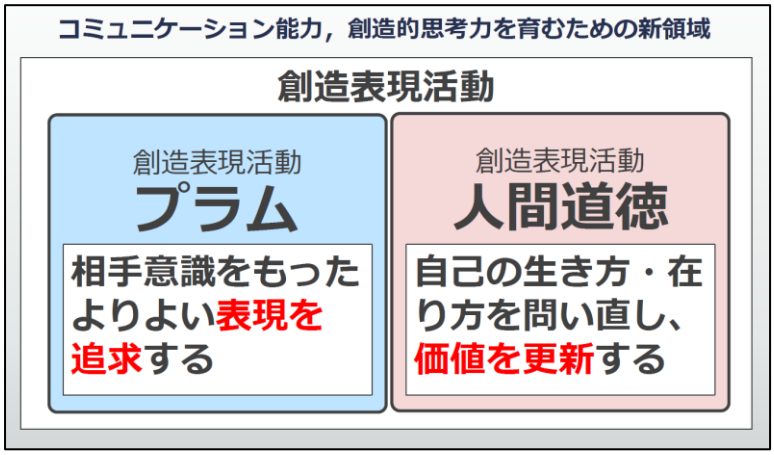
Q１

創造表現活動とは，どのような領域ですか？

A１

これからの時代に必要な「コミュニケーション能力」，「創造的思考力」を育成するための領域です。創造表現活動は，「プラム」と「人間道徳」の２つの小領域で構成されています。



価値観や文化の異なる他者との対話において必要なコミュニケーション能力，よりよい社会の形成に向け価値を更新し続けるために必要な創造的思考力，これら２つの資質・能力を重点的に育成するために，新領域「創造表現活動」を設置し，教育課程に位置づけました。

→総論 P. 4

Q２

コミュニケーション能力とは，どのような能力ですか？

A２

本校では「他者との対話を円滑に進めて，合意形成する力」と捉えています。

ここで示している「円滑に」とは，妥協点を見付ける，折衷案を生み出し歩み寄る，説得する，時には場の状況を感じて適切に対応する等のことも含まれます。また，口頭での対話のみに捉われず，様々な手法を用いて対話を円滑に進めることも含まれます。
そのような過程を経て合意形成することこそ，他者と協働して課題解決を行うために必要な資質・能力であり，これからの社会を生きる生徒たちにとって必要なものであると考えました。

→総論 P. 7， 8

Q３

創造的思考力とは，どのような能力ですか？

A３

本校では「自己を見つめ，よりよい社会に向かって価値を更新し続ける力」と捉えています。

創造的思考力とは向かうべき理想の自己や社会といったビジョンに向かって新しい関係をつくり出す働きであり，これまでの自分の行動や考え方と向き合い，ヒト・モノ・コトへの見方や考え方を多面的・多角的に問い直し，新たなビジョンや向かうべき理想の自己や社会像を創造することです。
創造的思考力が高まることで，今までとは異なる見方や考え方でヒト・モノ・コトを捉えることができたり，よりよい社会を創造するための新たなアイデアを生み出したりすることができると考えています

→総論 P.８， ９

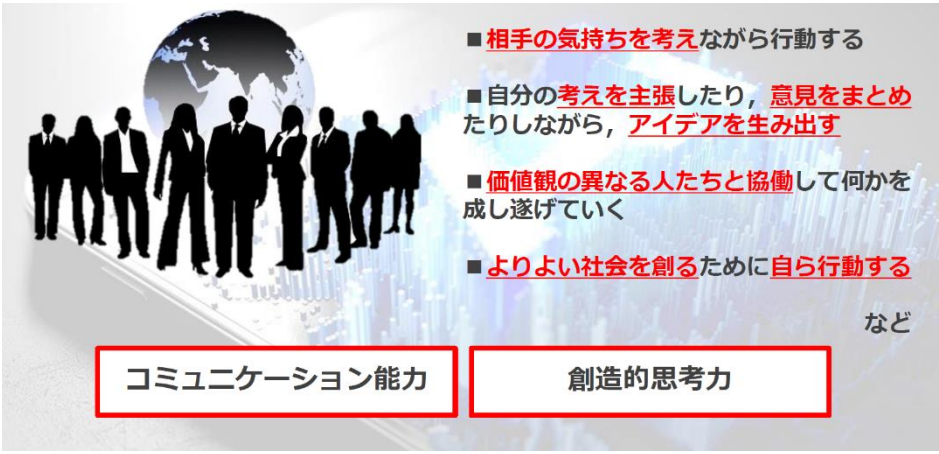
Q４

なぜコミュニケーション能力や創造的思考力を育成する必要があるのですか？

A４

労働の一部が AI に代替される社会が予想され，様々な文化や考え方をもつ人たちと意見交換をしながら，ものごとを解決したり，新たなものを生み出したりしていくことが必要になります。つまり，これからの多文化共生の時代において，自分と異なった考えや思いをもつ人と対話を重ね，共通する部分を見付けだし，新たな知や価値を創造する人材の育成が求められているためです。

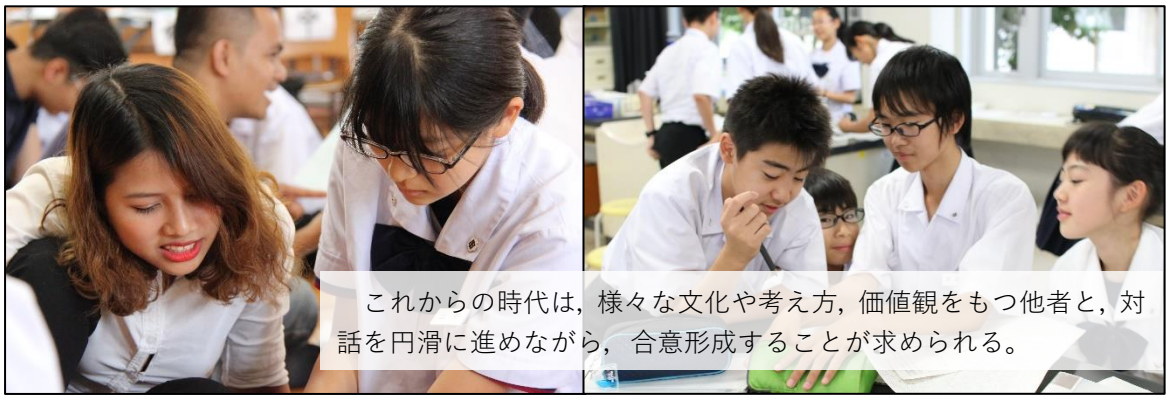
【これから求められる人物像】



→総論 P.１

Q5 **コミュニケーション能力が身についた（高まった）生徒とは，どのような姿ですか？**

A5 **状況に応じて，妥協点を見付けたり，折衷案を生み出して歩み寄ったり，説得したりするなどしながら，合意形成することができる生徒です。**



これからの時代は，様々な文化や考え方，価値観をもつ他者と，対話を円滑に進めながら，合意形成することが求められる。

→総論 P. 6

Q6 **創造的思考力が身についた（高まった）生徒とは，どのような姿ですか？**

A6 **自分とヒト，モノ，コトとを関連付けて，自ら見方や考え方を広げたり深めたり，別の視点から考えたりしながら，新たな価値を見出している生徒です。創造的思考力が高まることで，今までとは異なる見方や考え方でヒト・モノ・コトを捉えることができたり，よりよい社会を創造するための新たなアイデアを生み出したりすることができると考えています。**

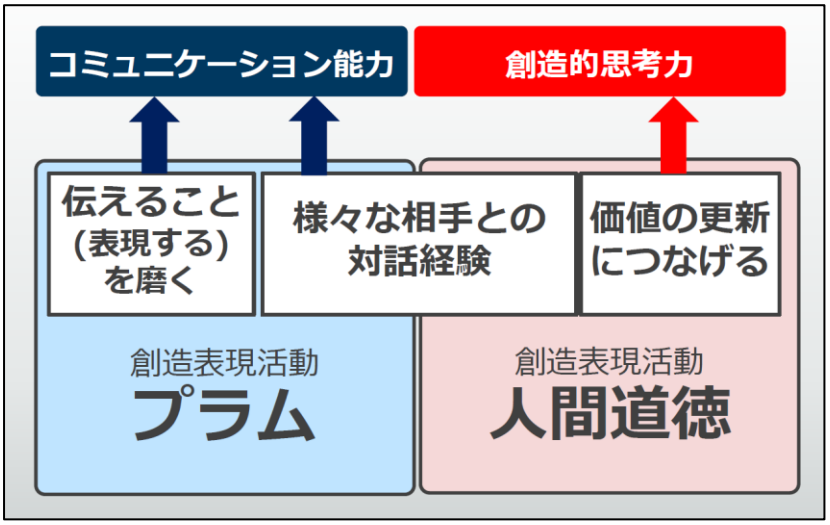
→総論 P. 7

Q７　なぜプラムと人間道徳の２つの小領域があるのですか？

A７

育成を目指す２つの資質・能力と関係があります。２つの小領域の目標に迫っていくことで，２つの資質・能力が育まれると仮定したためです。

【育成する資質・能力と２つの小領域の関係性】



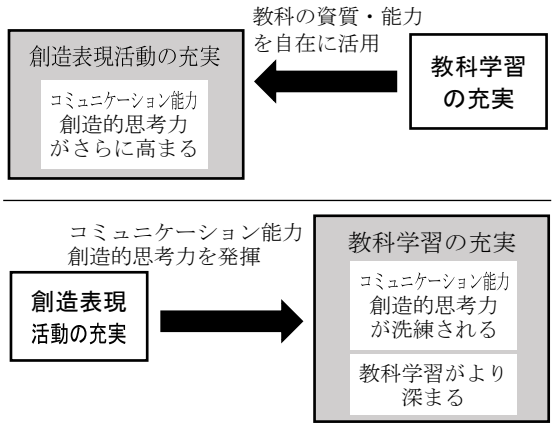
プラムの目標は，相手意識をもったよりよい表現を追求できるようになること。人間道徳の目標は，自己の生き方・在り方を問い直し，価値を更新することができること。
特色ある２つの活動に没頭して取り組み，目標に迫っていくことで，コミュニケーション能力，創造的思考力が育まれると考えました。

→総論 P.７～９

Q８　創造表現活動と教科学習には，どのような関連がありますか？

A８

創造表現活動では，様々な表現活動や体験活動に主体的に取り組んでいきます。その過程では，各教科で獲得した資質・能力などが，総合的に生かされなければなりません。逆に，各教科で育成された資質・能力は，創造表現活動において，様々な課題解決場面に活用され，思考力・判断力・表現力は鍛えられ，知識や技能は実感を伴って体得したり，各教科を学ぶ意義の理解が深まったりするなど，より確かなものとなっていきます。つまり，創造表現活動と教科学習は，相互に作用しあい，それぞれの資質・能力を育んでいきます。



→総論 P.５，19

Q9

プラムとは，どのような学習ですか？

A9

プラムは，11 時間の単元構成で，設定されている表現課題を追求し，相手意識をもったよりよい表現ができるようになることをめざす学習です。

【単元例】

→総論 P.10～13

Q10

なぜ，プラムという名称なのですか？

A10

本校のシンボルでもある「梅」から取り入れました。学習活動と関連はありませんが，生徒にとってなじみのある名称であるということを優先しました。

→総論 P. 3

Q11

プラムはなぜ，相手意識をもったよりよい表現ができるようになることをめざしているのですか？

A11

育成をめざすコミュニケーション能力との関連から，表現することに焦点をあてました。よりよい表現を追求する過程で，表現する相手のことを意識したり，自分の想いを伝えるためにどうすればよいのかを工夫したりすることが，一人一人のコミュニケーション能力につながると考えています。

プラムでは，さまざまな表現を追求しています

→総論 P.6， 7

Q12

プラムの内容（題材）は，どのように決めているのですか？

A12

単元の内容（題材）は教師が決めています。基準としては，生徒がこれからの社会を生きる上で必要な内容や，知的好奇心を揺さぶるような各教科と関連した内容等を扱っています。加えて，教師自身が得意なことや関心の高いことを扱っています。

左記は，平成 30 年度第 2 クールのプラム単元です。

（生徒用リーフレットより）

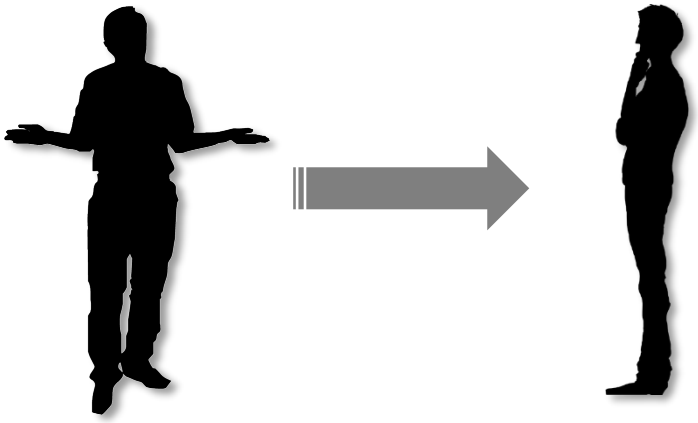
→総論 P.10～12

Q13

プラムの表現は，なぜ「身体」と「モノ」で分かれているのですか？

A13

自分の想いを伝えるためには，大きく分けて「身体を通じて表現する方法（言葉や動き，ジェスチャーなど）」と「モノを通じて表現する方法（図やイラスト，製作物等）」があると考え，この２つに関わる内容をまんべんなく学習できるようにしています。日常生活の対話でも，「身体」や「モノ」を活用しながら行うことがあるという点でも，関連付けています。



→総論 P.6， 8

Q14

プラムの１年生から３年生の内容に違いはありますか？

A14

学年があがるにつれ，表現する相手が，学校内の生徒から学校外に広がったり，表現課題のテーマに関する自由度を持たせたりしています。また，前学年までの学習を活用できるようにもしています。

→総論 P.9

Q15

プラムは，どのように評価をしていますか？

A15

「主体的・協働的な態度」「表現すること」の２つの観点で評価をしています。

観点	主体的・協働的な態度	表現すること
観点の趣旨	各単元で設定した表現課題やそれに関わる学習活動に対して，どのように取り組んでいるかを見取る。	各単元で設定した表現の要素が身に付いているかどうかを見取る。
評価規準	表現課題やそれに関わる学習活動に対して，自ら意欲的に取り組み，試行錯誤を繰り返し，他者と協働しながら取り組もうとしている。	自己の伝えたい想いを，身体またはモノを通じて表現することができる。その際，相手に伝わるように伝える内容を構成したり，伝え方を工夫したりすることができる。

どのように取り組んでいるか（主体的・協働的な態度）を見取るなかで，どのような対話を行っているか，どのように合意形成に努めているかを間接的に評価することができます。一方，表現の要素が身に付いているか（表現すること）を見取ることで，コミュニケーション能力を支える「伝えること」が育まれているかを評価することができます。

→総論 P.13

Q16

人間道徳とは，どのような学習ですか？

A16

人間道徳は，学年団全体で行うプロジェクトを進めていきます。プロジェクトを進めていく過程での振り返りを通して，様々なヒト・モノ・コトの新たな価値に気付いたり，多面的・多角的に考えたりし，自己の生き方・在り方を問い直す学習です。各学年が行うプロジェクトは，積極的に学校外に飛び出し，地域・社会とのつながりを生徒自身が実感できるようにしています。

地域・社会とのつながりを実感できる様々な体験を通して自己の生き方・在り方を問い直していきます

→総論 P.14～18

Q17

なぜ人間道徳という名称なのですか？

A17

人間としてどう生きるべきか，どう在るべきかを常に考えてもらいたいという願いと，本校の過去の研究「人間科」の名称と実践を踏まえて，設定しました。

→総論 P. 3

Q18

「価値」とは何ですか？

A18

本校では，「価値」を「自分が考えるヒト，モノ，コトの『よさ』」と捉えています。

→総論 P. 3

Q19

「価値の更新」とは何ですか？

A19

「価値の更新」とは，「自己の価値観をより高次なものに変化させること」と捉えています。自分事となったり，多面的に見られるようになったり，より強固な考えになったりした変化を広く「価値の更新」と捉えました。

→総論 P. 3

Q20 「重点を置く価値」とは何ですか？

A20 各学年のねらいを踏まえ，人間道徳の活動を通して生徒たちに考えてもらいたいことです。生徒の実態と教師の願いを踏まえて，各学年団で設定しています。

【各学年のねらいと重点を置く価値】

学年	ねらい	重点を置く価値とその捉え
第3学年	**心をひろげる～自己実現～** 様々な経験，多様な人たちとの関わりから，価値を更新し，理想の実現に向けて努力し，成し遂げることができるようになることをねらう。	**「個性」** 自分のかけがえのない個性に気づき，その個性を生かし，磨き，未来の自分の生き方・在り方につなげていこうとすること。 **「他者理解」** 他者を楽しませるとはどのようなことか気づき，他者の立場に立った物事の考え方ができるようになること。 **「社会参画への自覚」** 今ここにある社会と関わり，よりよくしていこうとすること。
第2学年	**心をつなげる～人間関係形成～** 価値観の異なる他者（地域や環境等も含む）との関係について理解し，人と人とのつながりや関わり，他者と共に生きることの大切さに触れ，自ら新たな人間関係を構築できるようになることをねらう。	**「相互理解」** 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，互いの個性や立場を尊重し，相手を寛容に受け入れ，自らを高めること。 **「個性の伸長」** 自己と向き合い，自分のよさや弱さをみつけ，そのよさを伸ばしたり，弱さを克服したりしようとしていること。 **「よりよく生きる喜び」** 自分のよさをみつけ，社会の中でよさをよりよくいかしていこうとすること。
第1学年	**心をたがやす～自己探求～** 自分の行動や考え方を常に問い直しながら，行動につなげることができるようになることをねらう。	**「自己理解」** 自己と向き合い，関心があることや得意なことを見つけたり，自分のよさや弱さを見つけたりし，ありのままの自分を受け入れること。 **「協力」** チームの一員であることを自覚し，自分の役割を果たしたり，仲間を助けたりしながら，チームの活動に貢献すること。 **「勤労・地域貢献」** プロジェクトの成功に向けて，自ら意欲的に取り組むとともに，地域のために自分が何ができるか考え，行動すること。

重点を置く価値は，各学年団のねらいにつながる内容であるとともに，これからの社会をよりよく生きるためにぜひとも考えてもらいたい内容として設定しています。
プロジェクトの過程で出合う様々な体験や振り返りの中で，設定された重点を置く価値について，深く考えています。

→総論 P.14，15

Q21

人間道徳は，どのように評価をしていますか？

A21

「主体的・協働的な態度」「新たな価値への気づき」の２つの観点で評価しています。

観点	主体的・協働的な態度	新たな価値への気づき
観点の趣旨	各単元で行うプロジェクトや単元の節目等で行う自己の振り返りに対して，どのように取り組んでいるかを見取る。	学習活動を通してどのような気づきがあったかを見取る。
評価規準	プロジェクトの成功に向けた活動や自己の振り返り活動等を，自分事として捉え，自ら意欲的に取り組んだり，他者と協働して活動に取り組んだりしようとしている。	自他との関わりから，新たな価値に気づいたり，これまでの自己の考えを多面的・多角的に考えたりして，自己の生き方・在り方を見つめ直すことができる。

様々な活動に対してどのように取り組んでいるか（主体的・協働的な態度）を見取ることで，プロジェクトの成功に向けて活動を進めながら，同質，異質の他者とどのような対話を行っているか，どのように合意形成に努めているかを間接的に評価することができます。一方，人間道徳の活動を通してどのような気づきがあったか（新たな価値への気づき）を見取ることで，創造的思考力の育成につながっているかどうかを評価することができます。

→総論 P.18

Q22

教科学習の位置づけは，どのようになっていますか？

A22

教科学習では，教科の本質に向かう学習を行います。創造表現活動で様々な表現活動，言語活動を重点的に行うため，教科学習では，しっかりと各教科の本質を見つめなおしました。また，各教科の知識や技能，見方や考え方等は，創造表現活動の表現の基になっています。

→総論 P.５，24

Q23

「教科の本質」とは何ですか？

A23

本校では「教科と実生活，実社会とのつながりを実感したり，教科を学ぶ意義を実感したりするために，その教科ならではの獲得すること（めざすもの）」と捉えています。そこには，その教科特有の働きかける対象と，それによって獲得することとがあり，本校ではそれを明確に示しました。

→総論 P.24